

再びその人らしい生活に

ふれあい ひろば

2022年 春号 Vol.100



愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 地域に向けてのリハビリテーション
- 2面 【連載】セラピストだより⑩ / 就任のご挨拶
- 3面 地域クリニックとの連携の中で③
- 4面 患者さまだより④ / 連載 訪問リハビリテーションだより

地域に向けての

リハビリテーション

愛仁会リハビリテーション病院

院長 吉田 和也

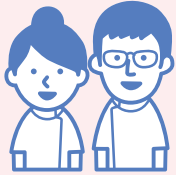
皆様、日頃より愛仁会リハビリテーション病院にご支援を賜り誠にありがとうございます。当院は回復期リハビリテーション病棟を中心に、地域の急性期病院や介護施設と連携して総合的なリハビリテーション医療を提供しています。入院治療では障がいを持った患者様に対して、多くのリハ関連の職種からなるチーム医療による集中的なリハビリテーションケアによって、日常生活の活動能力を早期に向上させ在宅へ導いていく事を使命としています。特に近年では、入院によるリハビリテーションのみではなく、退院後の自宅における生活において再び身体の機能が低下しないように、当院の豊富な専門職、マンパワーを駆使してサポートしていく事も大切であると考え、専門外来やリハビリテーションを介した在宅支援に力を入れています。

当院の専門外来には、口から物を食べることを目指す摂食嚥下外来、筋肉のツツパリによる疼痛や運動制限に対する痙縮治療外来、骨の脆弱化による骨折の再発を防止する骨粗鬆症外来、装具の適合をチェックする装具外来などがあります。また、当院の在宅支援部門が行う通院リハビリテーションや訪問リハビリテーション、在宅サービスセンター（訪問看護ステーション、ヘルパーステーション）などとも協働することで、生活期の患者様をサポートしています。



ところで、医療保険が適用されるリハビリ期間は制限されており、現状では病院で専門職が直接的に関わることができる時間は限られています。退院後、その後の介護にまでつながらない隙間や、介護だけでは不十分という患者さんが「リハビリ難民」にならないよう、どこにも切れ目のないリハビリテーションサービス提供体制の構築が目下の課題です。今後も地域との連携を密にとりながら、皆様に信頼される地域リハビリテーションの要となる病院をめざしていきます。

今般の新型コロナウイルスの感染拡大から既に2年以上が経過しました。世界中でワクチン接種が進み、有望な経口治療薬が開発されるなど、対応策が徐々に整備されつつあります。しかし、新たな変異株による感染爆発などなお気を緩めることができません。当院では感染対策には万全を期しております。引き続き皆様にはご不便をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。



退院後も
つながる

フォローアップ

理学療法科 池上 泰友

セラピストだより
VOL.10

医療スタッフが常にいる回復期リハビリテーション病院入院中と退院後では、環境が大きく違うため練習通りにうまくいかず、動作能力が落ちてしまうことも珍しくありません。そのため、当院では退院後に

患者さまが通ってこられる通院リハビリテーションや、ご自宅に伺って生活の場で実施する訪問リハビリテーションを提供しています。

当科ではコロナ禍以降、訪問リハビリテーションを利用された患者さまとオンラインでご自宅とつないで、入院中に想定した退院後の生活イメージの確認、生活環境、健康状態などの振り返りを行っています。また、居宅介護事業所のケアマネジャーに協力していただき、退院3か月後の患者さまの生活環境や動作能力の状況を報告してもらい、問題点を早期に発見できるようなフォローアップ体制をつくっています。

このように退院後のフォローアップ体制を整えていくことは大切であり、退院後も患者さまとつながることで、安心して療養生活を送れるよう今後もサポートをしていきたいと考えております。



+++ 就任のご挨拶 +++



副部長 神谷 亮平

この度、リハ技術部の副部長に就任いたしました神谷亮平でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

「地域へ参加できる生活を」というリハ技術部の理念のもと、リハ技術部の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と共に、質の高いリハビリテーション医療を提供していけるよう、一層の努力をしてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



副院長 越智 文雄

2020年4月に愛仁会リハビリテーション病院に入職以来、診療部長として入院患者の診療に加え、装具外来、ボツリヌス治療外来、書類外来、通院リハビリテーションを担当してきました。このたび主に外来部門を担当する副院長に昇任いたしました。愛仁会リハビリテーション病院の外来部門がさらに充実するように、診療の質を高め、サービスの向上に努めて参りたいと思います。引き続き愛仁会リハビリテーション病院をよろしくお願い致します。



副部長 森木 美香

4月から副看護部長となりました森木と申します。看護師6年目に当院に入職した際に「再びそのひとらしい生活に」という病院の理念に感銘を受けたことを覚えています。入院する前はどのような人生を送られてきて、退院後はどのように生きていきたいと思われるのか。入院されているみなさんと多職種チームと一緒に考え、再びその人らしい生活を送れるための支援ができればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

消化器内科
乳腺外科
外科

チョン

鄭クリニック

〒569-0852 大阪府高槻市北柳川町15-22

TEL.072-695-8015



今回は高槻市北柳川町にある鄭クリニックの鄭 栄植(チョン・ヨンシ)先生にインタビューをさせていただきました。

開業された経緯

大阪医科大学付属病院(現大阪医科薬科大学病院)、三島救命救急センター、ドイツでの外科研修、大阪府済生会吹田病院、北摂総合病院で勤務をされてきました。

ご家族が体調を崩され、当時勤務しておられた北摂総合病院を鄭先生も休まざるを得なくなり、将来について考えていた時に、担当されていた患者様から現住所での開業をすすめられたことが開業のきっかけになったとのことです。患者様や地域の方々とのつながりと鄭先生の想いも重なり、2008年にチョンクリニックを開業されました。

クリニックの特徴

勤務医時代は消化器外科・乳腺外科がご専門でしたが、クリニック開業後は手術後の診察ができるように外科・乳腺外科と消化器内科をメインに診療を行っておられました。現在もその中で様々な症状の患者様を診療され、お悩みを聞いていくことで、学ぶことが多くあったそうです。日々変化する病状や地域の医療のニーズに合わせて、一人一人の患者様と向き合うことで、専門ではない疾患や認知症などに対応し、お悩みや症状の原因を一緒に探していくという地域の開業医としての重要性を強く実感されたとのことです。

西洋薬を飲みたくないという患者様が aumentando ことから、無理に飲むことのないように東洋医学の漢方を取り入れ、薬害を減らせるよう取り組まれています。更年期障害、生活習慣病、精神疾患など様々な症状に効果があるとのことで、漢方の処方量はとて多いそうです。

また、お父様が認知症を発症していたこと、高齢化社会に付随して認知症患者が増えていることから、治療をさらに確立するために、認知症治療において定評のある名古屋フォレストクリニックにて治療法を学び、現在もその治療法を取り入れ患者様に合わせて幅広く治療をされています。

また、近隣医療機関との連携をして、患者様の症状に対し迅速に対応し最適な治療方針を考えられています。

◀鄭 栄植(チョン・ヨンシ)先生

*診療時間 下記時間以外は往診となります。

診療時間	月	火	水	木	金	土
8:45~13:00	●	●	●	—	●	●
15:45~18:00	●	●	●	—	●	—

*休診:土曜の午後・木曜・日曜・祝日

*精神科外来は不定期となります。ご相談ください。

*アクセス 阪急京都線「総持寺駅」より徒歩約8分



どの病院に行けばいいのか。なかなか症状が軽快せずどうしたらいいかわからないという方は、何でも気軽に相談してほしいし、何が原因なのか何かヒントになるようなことがないか一緒に探し、30年間の経験と知識で患者様と地域の医療を支えたい。と、お言葉をいただき優しい人柄を感じることができお話を伺うことができました。鄭先生お忙しい中お時間いただきましてありがとうございました。

(地域医療部 原田 涼平)

インタビュー INTERVIEW



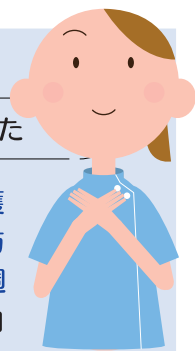
Yさんは頸椎症性脊髄症の術後のリハビリ目的で昨年10月より入院され、お一人暮らしに戻るべく一生懸命リハビリに励まれ、今年の2月上旬にご自宅へ退院されました。現在はお近くにお住まいのご家族や在宅サービスのサポートを受けながらお一人暮らしをされています。

退院後のご様子について伺いました

退院後2カ月が経過した今、介護保険制度を利用して、訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護、デイケア(週2回)を受けておられます。また、自宅がエレベーターなしのマンション5階という環境で、福祉用具をレンタルされ、ハンディウォークというバギーで歩行練習を行なっておられます。頸椎症性脊髄症の手術後、後遺症が重くなかなか筋力が付かないように思われていたとのことですが、練習の甲斐もあってか、最近は速く歩行できるようになったとのこと。買い物に速く行けるよう、引き続き訪問リハビリの理学療法士さんと訓練を積まれるとのこと。

お電話越しでも生活のご様子が伝わり、Yさんらしさを感じることができました。今後もYさんらしく過ごせるよう、応援しています。この度は本当にありがとうございました。

地域医療部 内藤 愛



愛仁会高槻 訪問リハビリテーションだより

愛仁会リハビリテーション病院からの訪問リハビリテーションは、当院退院後の方だけではなく、ご自宅で生活されておられる方が、徐々に生活が困難になられた方や他院を退院された方も対象に訪問をさせていただいています。今回は訪問リハビリをご利用されて安定した歩行が可能となったKさんをご紹介します。



安定した日常生活を取り戻すために

在宅支援科 山下 真人

痛みに関しては軽減傾向でしたが、安静にしすぎる傾向があり、動作時の注意点や運動負荷量の目安についてアドバイスを行いました。また、身体機能評価からフレイルの状態に陥っており、パンフレットを用いて運動の必要性の説明や運動方法・回数などの自主練習の指導を行いました。開始約2カ月間Kさんは毎日自主練習を欠かさず行い、屋内歩行のみならず屋外歩行も杖なしで安定して歩行可能となり、階段昇降も可能になるなど、がん治療前の状態に改善したため、訪問リハビリは終了となりました。当院の訪問リハビリご希望の方は当院ホームページをご覧ください。

